

BUNGAKUZA TSUSHIN 2021.4 Vol.740

文学座通信

- オフアトリエ企画『SEVEN・セブン』& …… 1～3
自主企画公演「岸田國士恋愛短編集」
- 本公演・地方公演『ウィット』…………… 4～5
- 文学座 昨日 今日 明日—— 瀬戸口 郁 …… 6
- 御礼・文学座クラウドファンディング…………… 7
- アトリエ短信…………… 8

4月9日(金)～16日(金) 信濃町 文学座アトリエ

☆ライブ映像配信あり

岸田國士フェスティバル

主催＝岸田國士フェスティバル実行委員会／協力＝文学座企画事業部



恋愛にまつわる三作品を三本立で上演

〈岸田國士フェスティバル〉

『岸田國士恋愛短編集』

作＝岸田國士

監修＝鷗山 仁

演出＝五戸真理枝、生田みゆき、小原まどか

2020年に稽古を進めていたにも関わらずイベント自粛要請により上演できなかった文学座アトリエの会との連動企画作品を満を持して上演いたします。

3人の演出家〔五戸真理枝、生田みゆき、小原まどか〕が文学座アトリエの空間で岸田の初期作品に多角的に挑みます。

～2020年 稽古場にて～

『チロルの秋』

演出＝生田みゆき



『命を弄ぶ男ふたり』

演出＝五戸真理枝



『恋愛恐怖病』

演出＝小原まどか

文学座オフアトリエ企画

主催＝文学座アトリエ委員会

7人の女優 × 7人の女性社会活動家 × 7人の女性劇作家

ドラマティック・リーディング

SEVEN・セブン

作＝ポーラ・シズマー／キャサリン・フィロウ／ゲイル・クリーゲル／
キャロル・K・マック／ルース・マーグラフ／

アナ・ディヴィエール・スミス／スーザン・ヤンコヴィッツ

訳＝三田地里穂

演出＝水野玲子



稽古初日にて

劇団創設以来八十余年、われわれは今また、演劇表現のあり方について根本的な問い直しを迫られています。

1958年に岩田豊雄が起草したアトリエ憲章によれば、「世間や時流と無関係の立場」で、「文学座の明日のために研究し、練習する機関」であると同時に、「文学座の工房、冒険的な試演」の場でありたいと。その文学座アトリエも、時に効率化、平準化の波に抗えず、真の新しさを提起しえなくなってしまう恐れ、なきにしもあらず。このあたりでわれわれは「アトリエ」の初心を改めて謙虚に受け止め、あらゆる既成概念を疑うという創造の原点に立ち戻り、この世界の真理に迫る演劇を模索し続けたいと考えています。

アトリエや、隣接するモリヤビルの小空間にたてこもり、むしろ様々な制約の中にこそ生まれる清新な表現を目指してこの4月、「オフ・アトリエ」企画を立ち上げます。

文学座アトリエの新しい出発に、どうぞご注目、ご支援を賜りますように。

アトリエ委員会 鷗山 仁

アトリエ短信

■営業時間短縮から通常営業へ

政府からの新型コロナウイルス感染症の感染拡大による「緊急事態宣言」のさらなる延長を受け、3月21日(日)の宣言解除まで営業時間を10時～17時に変更させていただいておりましたが、宣言解除に伴い10時～18時に戻して営業中です。お客様にはご迷惑をお掛けしましたことをお詫びいたします。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

■松本祐子が令和2年度(第71回)芸術選奨文部科学大臣賞受賞

コロナ禍で劇団活動再開の第一弾となった昨年11月本公演『五十四の瞳』で、「歴史に翻弄されながらも生きる人々を描いた戯曲(鄭義信作)を、丹念な人物造形と笑いを交えた快活さで演出した手腕が評価され」、演出部の松本祐子が芸術選奨文部科学大臣賞(演劇部門)を受賞しました。

また、同作品は芸術祭賞 演劇部門の優秀賞を受賞しました。



萩生田文部科学大臣より表彰状を授与される

■座友

演出部で照明家の古川幸夫が退座し、3月15日付で座友となりました。



芸術祭賞の賞状・トロフィー。目録を前に松本祐子

■プラチナクラス第11期オーディション開催

去る2月28日、プラチナクラスのオーディションが行われました。40代から70代まで平均年齢は55歳と、これまでの期に比べると年齢層はやや低め。全員で11月の卒業公演・シェイクスピア作『ベニスの商人』(演出：西川信廣・大滝寛)を目指します。マスク着用で身体をほぐす体操をグループで行った後、マスクを外して課題『ベニスの商人』からの独白を読み、審査員として立ち会った大滝寛、瀬戸口郁が相手役を務めながら対話を行い、その後の質疑応答では自宅からの通い時間、家族の了解、公演直前の集中稽古時間のことなど、具体的なかつ重要な事柄を確認、さらに、それぞれの経歴と照らし合わせながら、このクラスへの応募動機についての質問が続きました。

過去に文学座のワークショップを受けた方、まだまだ此処で学びたいというプラチナ・リピーターの方、演劇経験はないが、これまでの活動をきっかけに舞台に興味を持った方、「退職を機に新たなことにチャレンジしたい」「文学座の芝居を観て、文学座で学んでみたい」「非日常に身を置いて声を発したい」「ずっと観ることを楽しんできた。人生の岐路に立ち、一度舞台に立ってみたい」「シェイクスピア作品への憧れ」……。語る一人ひとりが自身で獲得していくこと、皆で獲得していくことへの期待に目を輝かせる。

「自分の新しい面を発見し、他者から刺激をうけ、そして仲間と喜びを分かち合います。演劇は未知との遭遇と言っても過言ではありません」と語る西川信廣。「40歳からのワークショップ」にも演劇の扉は開かれています。

■鎌倉市川喜多映画記念館企画展

「日本映画名優(バイプレイヤーズ)列伝」開催中

日本映画の黄金時代を支えた数々の名優たちをいくつかのテーマに沿って紹介する展示会で、演劇を本業としつつ、多くの映画に出演した名優たちの舞台写真などを展示、映画上映も予定されています。(杉村春子『晩菊』『警察日記』『小早川家の秋』、加藤武『放浪記』『日本のいちばん長い日』など)

6月20日(日)まで。詳細は同館のHPをご覧ください。

出演情報

- ★ 高橋克明：『ロミオとジュリエット』(W・シェイクスピア作、松岡和子訳、森新太郎演出) 3/29～4/18 東京グローブ座、4/21～25 梅田芸術劇場(シアター・ドラマシティ)
- ★ 山森大輔：『斬られの仙太』(三好十郎作、上村聡史演出) 4/6～25 新国立劇場(小劇場)
- ★ 松井工：ミュージカル『モーツァルト』(ミヒヤエル・クンツェ脚本・作詞、小池

- 修一郎 訳詞・演出) 4/8～5/6 帝国劇場ほか
- ★ 武田知久：『I'll BE OKAY』(坂本奈央脚本・演出) 4/9～11 RAFT(「中野坂上駅」徒歩10分) 4/12 配信あり
- ★ 林田一高、越塚 学：トリガーライン番外公演VOL.3『NO BORDER』(林田一高作・演出) 4/9～18 BAR GARIGARI(「池ノ上駅」北側より徒歩30秒)
- ★ 高橋ひろし、柳橋朋典、佐藤麻衣子：『ロンググッバイ』(富田 求作・演出)

- 4/14～18 中野ザ・ポケット
- ★ 上田桃子：リーディング公演『ボルノグラフィ』(サイモン・ステューヴンス作、小田島創志訳、桐谷知也演出) 4/16～18 KAAT 神奈川芸術劇場(中スタジオ)
- ★ たかお鷹：『月とシネマ』(G2作・演出) 4/17～5/9 PARCO劇場、5/12～16 COOL JAPAN PARK OSAKA(WWホール)
- ★ 本山可久子：『パンとサーカスそして再び』(ソンプレロ作、富田稔英演出) 4/21～25 ひつじ座(南阿佐ヶ谷)